

東京納税貯蓄組合総連合会会長賞

『私たちが主人公』

町田市立鶴川第二中学校 3学年 濱田 千尋

「私たちが主人公」

これは、学校で行われた租税教室で税理士の方が教えてくださった言葉だ。正直、それまでの私には「税を払わされている」という感覚があった。税が社会の中で役に立っているという知識自体はあったのだが、税は「大人の世界」であり、私には関係のないと考えていたのだ。だからこそ、この言葉を聞いた時、とても驚いたと同時に、税に対する考え方が大きく変化した。その中でも私は、「健康と税」について注目した。

私は、小さい頃から体が弱く、持病もあったため、三歳頃までは毎日のように体調を崩し、週三回ほど地域の病院に通っていた。小学生になると、以前よりは体調を崩すことは少なくなったが、それでも五年生の夏までは月一回、病院に通っていた。このことを思い出すと、私の中に「医療費や薬剤費はどのくらいかかっていたのか」という疑問が湧いてきた。そこで、親に聞いてみると、病院では二百円だけ払い、薬は無料でもらっていたということが分かり、「二百円しか払っていない

かったの?」思わず叫んでしまった。さらに、親は「税金のおかげなんだよ。たくさんのおかげで今のあなたがいる」と教えてくれた。租税教室でも税は医療のために多く使われていると教わったことを思い出し、インターネットや資料を使い、調べてみると、税は社会保障のために最も多く使われていることが分かった。税や税を納める人のおかげ。そう考えると、税とは感謝の気持ちやお互いを支え合う気持ちからなっているのだと感じた。税によって困った時に助けてもらえる。私たちが健康に暮らしていける。まさに「私たちが主人公」。税理士の方が教えてくださったとおりだ。税は「払わされている」ものではないし、私に関係のないことでもない。税は私たちのためにあるのだと、これらの経験から学ぶことができた。

日本は今、少子高齢化や人口減少が進んでいる。そのため、私たちが社会に出て働くようになる頃には、税の負担は今よりも大きくなるだろう。だからこそ、今、大人はもちろん、子供である私たちも、自分たちの将来のこととして税を捉え、みんなが今よりも健康に充実した日々を送るためにはどのように税を使ったら良いのか、税の在り方を考えるべきだと思う。そして、私は、たくさんの人に支えられて生きていることを忘れずに、税への関心を持ち続け、「私たちが主人公」である明るい未来のために税を納める、そんな大人になりたい。